

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	すまいる			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 1月 6日 ～ 令和 7 年 1月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 1月 6日 ～ 令和 7 年 1月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○訪問先施設評価実施期間	令和 6 年 11月 18日 ～ 令和 6 年 12月 13日			
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	6名	(回答数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 2月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医師、看護師、栄養士、機能訓練士、相談支援専門員等、多職種の視点による支援が可能である	和こうや訪問先の園で挙げられるこどもの課題（着席の姿勢や筆記用具の使い方など）を、様々な職種の視点から支援方法を検討して実施している	挙げられた課題は各機関で情報共有を行い、共通した支援を提供することができるようにしている。また、必要に応じて和こうやリハビリの見学を行える体制を整えている
2	併設している児童発達支援事業を利用しているこどもが多く、児童発達支援の環境は少人数の環境であるため、個々のニーズや成長発達段階を細かくアセスメントを行うことができ、計画に反映しやすい	こどもが併用利用しているこども園の運動会や表現会等の行事への行事参加のための連携（行事で使用する曲目を児童発達支援で流すことや徒競走やリレー等の競技を小集団活動に取り入れる等）を図ることを意識して行っている	訪問支援員が事前に訪問先施設職員と打ち合わせを行い、こどもの行事参加に向けた練習の場に参加して実際に支援を行う機会を設け、より連携がとれる体制作りを図る
3	地域の軸となるよう、必要な情報・講演会や研修会のご案内など発信している	地域のこども園・幼稚園職員との研修を開催し交流を図っている 就学準備や地域の施設への移行などご家族のニーズを把握できるよう努めている	必要に応じて主となり担当者会議を開催する。 地域障がい者自立支援協議会に参加し、知り得た情報は迅速に伝達している

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員が、訪問先のこども園に行き、保育の現場で支援を行っていく十分な時間を確保することができず、実際は訪問した際にこどもの様子を見たり、職員との話し合い・情報共有が主になることが多い	他職種と兼務しているため、訪問支援員の人員を十分に確保することができておらず、訪問先施設が支援を難しいと感じる具体的な場面（例：給食時間、登園時間、主活動時間など）に合わせて訪問することが難しい	訪問支援員が、訪問先が支援を必要と感じている時間に合わせて滞在し支援を行えるように専任としての配置できることが課題として挙げられる。まずは事業所内で連携を図り、部署間で職員の応援体制を整え、適切な訪問時間を確保できるよう検討していく
2	こども園の環境下での支援方法の工夫が不十分である	訪問支援員としての、専門的な知識や経験がある職員の人数が少ない	訪問先に訪問員の他に職員（保育士）を同席させて、経験を積む機会を設けたり、訪問員として専門的な知識を得られるような研修への参加の機会を設けていく
3	現在は同事業所にある児童発達支援を利用している児の訪問だけを行っており、その他（地域の保育所、こども園などのみを利用している児への訪問など）の訪問を行えていない	地域の保育所、こども園のみを利用している児の訪問を行う際は、アセスメントや個別支援計画の立案、支援の実施などについてより専門的な知識・経験が訪問支援員に求められるが、スキルが不十分である	訪問支援員としてより専門的な知識・経験を持つことで、より多くの訪問支援を行えるように、様々な研修への積極的な参加をする機会を設けたり、第三者委員会の外部評価を行うなど、サービスの質の向上に向けて実践していく必要がある